梅村学園創立100周年

100th UMEMURA ベストMAX

新たなステージに挑み続ける 学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ

2023年、創立100周年を迎えた学校法人梅村学園。1923(大正12)年の中京商業学校(現・中京大学附属中京高等学校)の開校以来、着実な歩みを続け、社会に貢献できる人材の育成に力を注いできました。次代を見据えさらなる革新と時代を切り拓く教育を推進する梅村学園の総長・理事長で中京大学長の梅村清英氏に、学園の目指す未来について伺いました。

学校法人梅村学園 総長・理事長 中京大学長 **梅村 清英氏**

1969年名古屋市生まれ。91年中京大学経済学部卒業。96年同大学院経済学研究科博士後期課程単位取得。2005年博士(経済学)。中京大学経済学部助教授、同学部教授、同学部長、学校法人梅村学園理事長代理などを歴任。13年より学園理事長。16年同総長。21年4月より現職。

脈々と受け継がれる建学の精神 100周年を機にさらなる飛躍を

―理事長就任10年目に迎えられた学園の100周年をどのように捉えられていますか。

この10年で世界は急速に変化を遂げ、コロナ禍という未曾有の事態により価値観も一変しました。大学では2020年に新設した国際学部国際学科、言語文化学科が大きなあおりを受けましたが、アフターコロナ時代により活性化するであろう国際競争社会に対応できる学部として大きな期待を寄せています。

時代の変化に対する柔軟な対応や未来を見据えた変革は、学祖・梅村清光生誕の地・水戸の藩校である弘道館の精神「文武不岐(文武両道)」を根幹に定められた、本学園の校訓「真剣味」に基づき進められてきました。全国に名を馳せる総合大学として高い評価をいただきながら100周年を迎えられたことは、先見の明を持ち、次代の芽を育ててこられた歴代の理事長、学長、附属校の校長をはじめ、先人の皆様の尽力の賜物であり、この場を借りて感謝申し上げます。

―「真剣味」に込められた思いを教えてください。

「真」は「知育(学力)」、「剣」は「体育(体力・スポーツ)」を意味し、「味」は「徳育(人間力)」を意味しています。大学が目指す「自ら考え、行動する、しなやかな知識人の育成」のため、「知・体・徳」のバランスのとれた人間形成を目指した結果が、学部を超えて学びを深めることができる総合大学へとつながりました。

礼儀を尽くしてこそ本物となる知力 社会的課題に取り組む研究者の育成も

―建学の精神では「学術」と並んで「スポーツ」を称揚されています。

「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」という建学の精神は、学術と並びスポーツが人間形成、人格形成に重要な役割を果たしていることを意味しています。現代で言うスポーツマンシップ。健全な心身のもとで、ルールを守り、礼儀を尽くした上でこそ、知力は本物となります。

―現在も在校生や卒業生がスポーツ界で活躍されています。

100名を超えるオリンピアンを輩出するなど、輝かしい実績を残すことができています。プロスポーツの世界でも、先日のWBCでは中日ドラゴンズの高橋宏斗選手が大きな活躍を見せてくれました。他にも中山礼都選手、堂林翔太選手などの目覚ましい活躍が在校生にも大きな励みとなっています。

―中京大学附属中京高等学校の硬式野球部は非常に活気があり礼儀正しく、建学の精神が息づいているように感じます。

ありがとうございます。ただ、年々スポーツのレベルも上がってきていますので、学園によるトータルサポートが必要不可欠だと考えています。指導者の体制はもちろん、主人公となる生徒、学生がしっかりとした学生生活を送ることができる体制づくりを進めています。

―過去を振り返っても先駆的な取り組みが進められてきました。

1955年、学園の私立大学院で最初の博士課程を設置し、競技パフォーマンスの向上やコーチングの専門家養成など、多面的に取り組んできました。社会的課題に身体活動・スポーツを通じて対応できる研究者の育成も行い、地域振興や国際協力等の教育に生かせるような研究も進めています。

柔軟な発想と行動力で教育を深化 次の100年へ向けて描くビジョン

―100年の伝統の中で組織された同窓生のネットワークも大きな信頼となっています。

卒業生は約18万人に及び、産業界や教育界など幅広い分野で活躍しています。国家公務員総合職、そして国家公務員一般職の卒業生も毎年続けて輩出しています。特色としては警察官や教員が多く、全国の各都道府県に支部があり、ネットワークが広がっています。とても力強く在学生をバックアップしてくれています。

―まさに100年の歴史と伝統によって築かれた財産と言えますね。こうした積み重ねを礎に描かれる学園のビジョンとはどのようなものでしょうか。

まずは100周年を迎えるにあたりスローガン「ベストMAX」を策定しました。これは「学生・生徒の持つ能力や強みを最大限に伸ばし、開花させ、世の中に送り出す」という宣言です。そして梅村学園が社会に求められる教育機関で在り続けるための長期ビジョン「UMEMURA VISION 2033」により10年後の学園のあるべき姿を示し、そこにいたるための具体的な長期計画として中京大学では「NEXT10 2033」を定めました。

―「NEXT10 2033」の内容をお聞かせください。

まずは新たな時代を切り拓く教育の推進です。デジタルイノベーションが進む社会で新たな価値を創出できる人材を育てるため、データサイエンス教育や問題解決型学習、持続可能な開発のための教育等を充実させていきます。また総合大学として、分野横断型の共同研究および特色ある研究活動を加速させ、グローバルあるいは地域特有の課題へも挑戦、研究支援体制のさらなる充実も図ります。このほか国際化、学生支援、社会連携・社会貢献の5つの骨子の基本方針を定め、推進事項を着実に実行することで大学改革につなげていきます。これらをまとめ高校から大学へ至る一貫教育を強みとした「中京プランド」を確立し、常に魅力ある情報発信を続けていくと考えます。

一方、高校でも長期計画「NEXT10-sh 2033」を推進していきます。

―最後に理事長が思い描く「中京プランド」を体現する人物像についてお話しいただけますか。

私が経済学部の一期生として中京大学に入学した当時から、大学・高校ともに元気があり活気あふれるイメージがありました。こうしたバイタリティが原動力となり、全国レベルで文武不岐を体現する梅村学園の評価へとつながっているのだと思います。やはり社会に出て活躍できる人材は、挑戦を楽しみ、物事を探究できる心を持っています。ぜひそうした挑戦する気持ちを育む中京大学附属中京高等学校、中京大学を選んでいただきたいと思っております。

挑戦を楽しむ人材です。

中京大学豊田キャンパス

中京大学名古屋キャンパス

中京大学附属中京高等学校

1923—1947

名古屋市昭和区桜田町にあった1926年竣工の校門玄関

1923年、愛知県名古屋市に中京商業学校が開校。「文武不岐」を礎とする「真剣味」を校訓とし、その実践を強調した。中京商業学校は、開校以来スポーツにもカを入れ硬式野球は1931年夏の全国中等学校野球大会で早くも初優勝、翌1932年、1933年と3年連続優勝を成し遂げた。

1948—1960

中京大学日正門(現西門)と本館(1955年頃)

中京商業学校は戦中・戦後の難局を乗り切り、1948年の新学制によって中京商業高等学校となった。そして、1951年には現在の学校法人へと組織変更を行った。その後、1954年に中京短期大学が、1956年にはその短大を母体とした四年制の中京大学が開学した。

1961—1985

1971年4月 体育学部が豊田へ移転し、初の入学式が行われたキャンパス(手前が3号館建設中の様子)

1971年に中京大学第2の学び舎となる中京大学豊田キャンパスが完成すると、体育学部が移転した。「日本一の体育学部」を目指し、1972年には大体育館が完成するなど、その整備が進められた。時を同じくして、中京大学初の大学院も設置され、総合大学としての基礎を固めた。

1986—1999

1987(昭和62)年、新キャンパス桜の花咲はころだ頃の正門風景

中京大学が開学40周年を迎えた1994年、名古屋キャンパスにセンタービルが完成した。山手通に面した洗練されたたたずまいは、八事の街並みを一新し、開かれた大学のシンボルとなった。中京高等学校は、1995年に中京大学附属中京高等学校へと名を改め、3年後の1998年には男女共学となった。

2000—2023

中京大学では、長期計画「NEXT10」に基づいて、教育力・研究力を向上させるとともに、社会連携・国際化・卒業生連携の充実を図った。中京大学附属中京高等学校は、中期計画のもとで2019年度に国際コースを開設し、中京大学との7年一貫教育にも力が入れられている。

企画・制作／中日新聞広告局

中京大学 在学生／中京大学附属中京高等学校 在校生

学校法人 梅村学園 創立100周年

学校法人 梅村学園

中京大学

中京大学附属 中京高等学校 [2023年4月通信制課程 開設]

梅村学園 創立100周年 記念サイト